

地域医療に根ざした環境で実践力を磨く学びの場



島田 紗良

Shimada Sara

医学部医学科 第2学年

道愛女子高等学校出身
学校推薦型選抜(先進研修連携枠)

幼少期の通院や家族の病気をきっかけに、医師の献身的な姿に憧れを抱きました。自分自身も医学部での学びを通して、高い専門知識や技術を身につけ目の前の患者さんを救える存在になりたいと強く思うようになりました。中でも、地域医療を重視し先進的な研究にも取り組む札幌医科大学に強く魅力を感じ、診療参加型実習や少人数教育のもとで主体的に学び、実践的な力を身につけたいと考え志望しました。札幌医科大学の整った学習環境での講義や実習を通して医学に関する知識や理解を深めることができます。さらに先生方の丁寧な指導や先輩方、同期とのつながりに支えられながら、充実した日々を送っています。将来は、高い専門性と人間性を兼ね備え、患者さん一人ひとりに真摯に向き合いながら地域医療に貢献し多くの命と健康を支える医師を目指したいと考えています。受験勉強では不安やスランプを感じることもありましたが、周囲の友人などに支えられながら前向きに取り組む、乗り越えてきました。受験生の皆さんも、自分を信じて日々の積み重ねを大切に、心身の健康にも気を配りながら最後まで挑戦し続けてください。

知的好奇心を育み伸ばすことの出来る場所



小島 一朗

Kojima Ichiro

医学部医学科 第4学年

時習館高校出身
一般選抜(先進研修連携枠)

基礎医学の研究者である父の背中を見て育ち、幼い頃から医学という学問に強い憧れを抱いてきました。医師を志したのは、患者さん一人ひとりに真摯に向き合い、直接的な医療行為を通して病に苦しむ方を支えることのできる、責任と使命の大きな専門職であると感じたからです。札幌医科大学に進学したのは、低学年のうちから最先端の医療や研究に触れられる教育環境に魅力を感じたためです。2年次には、外科の先生方がご献体を通じて手技の研鑽を積まれる「サージカルトレーニング」を見学し、外科医に求められる高度な技術と重い責任を肌で実感しました。また、本学にはMD-PhDコースが設けられており、学部生の段階から基礎医学研究に主体的に取り組める体制が整っています。自ら関心を抱く講座に所属し、研究テーマを設定して探究を深められる環境は、本学の大きな特色であると感じています。将来は、確かな医学的知識と技術を備えることはもちろん、「この先生になら安心して相談できる」と信頼していただける医師を目指しています。受験期間の努力は必ず将来の礎となります。自らの志を信じ、最後まで挑戦を続けてください。心より応援しています。

学ぶ姿勢を見逃さずに拾い上げてくれる指導環境



菊地 蓮

Kikuchi Ren

医学部医学科 第5学年

市立札幌旭丘高等学校出身
一般選抜(先進研修連携枠)

私は高校1年生の時に医師を志しました。医学に強い興味を抱いたことが、その原点です。幼い頃から勉強することと人の役に立つことが好きで、生涯にわたり医学を学び続け、患者さんの力になれる医師という職業に大きな魅力を感じ、札幌医科大学への進学を決意しました。入学後に感じた札幌医科大学の魅力は、学習に集中できる環境が充実している点です。24時間開放されている図書館やPC室は多くの学生に利用されており、主体的に学びを深めることができます。また、施設面だけでなく、先生方や職員の皆様も、学ぶ意欲を持つ学生一人ひとりに丁寧に寄り添ってくださる点も、本学ならではの魅力だと感じています。4年生後期から始まった臨床実習では、出会った先生方全員が学生指導に真摯に向き合ってくださっていることを実感しました。患者さんを通して、教科書で学んだ知識と実臨床とを結びつけて学ぶことができ、日々充実した学習を続けることができています。医師になるためには、医学部という狭き門を通過する必要があります。学習の過程では、身体的にも精神的にも辛い時期が訪れるかもしれません。そのような時には、自分の努力の先に救われる命があることを思い出してほしいと思います。今の努力は、必ず誰かの役に立ちます。モチベーションを絶やさず、受験を乗り越えてください。将来、皆さんと医療の現場でお会いできることを心より楽しみにしております。

支えてもらう6年間を経て人に仕える医師へ



大屋 温

Oya Nodoka

医学部医学科 第6学年

函館中部高校出身
学校推薦型選抜(特別枠)

小さい頃は漠然と医師に憧れていましたが、高校生のときに中村哲さんや公文和子さんといった医師の働き方を知って、人に仕える医師になりたいと思うようになりました。地方で生まれたこともあって地域医療を学びたかったこと、学費援助をいただける特別枠入試制度があったことから本学を志望しました。実際に通ってみると、3年次や5年次での地域実習で地方の人々の暮らしや医療問題を肌で実感する良い機会が与えられました。実習時の地域医療に対するイメージや知識は、低学年のときの地域医療セミナー等の授業で事前に養われたように思います。また、臨床実習では先生方が熱心で、色々なことを経験できるように考えてくれます。24時間利用できる図書館や新しい校舎など勉強する環境も整えられています。もちろん、部活動やイベントなど学校生活を彩る要素もあります。私はスキー部に入りましたが、他の学生との交わりやそこで共有した経験・感情は私の大きな財産です。卒業後は、医師の土台としての確かな知識と技術を身に付け、最終的に北海道に貢献できるようになりたいです。私は、高校時代至らない部分も多かったですが、たくさん助けられて大学生になりました。皆さんも一人ではないはず。どんなことにもきっと意味があります。皆さんが、長い間努力を重ね準備されてきたことを十分に発揮できるよう願っています。